

第26回子どもたちからの人権メッセージ発表作品

「良い世界を作るために」

清瀬第八小学校 六年 香川美來

私は障害者ではありません。けれど世の中にはいっぱい障害者がいます。そんな障害者の一人と、私たち（六年一組）のお話です。

ある日図書室で一人のボランティアさんが本を読んでくられるということで、私たちは図書室に向かいました。しばらく待っていると図書室のドアが開きました。どうやらその人はつえをつきながら歩いて来ました。するとボランティアさんのイスにその人は座りました。そして本を読み始めました。私の周りから色々な言葉が聞こえます。

「あの人どうしたの」

「あの人目見えないらしいよ」

「なんかやだな」

などの言葉が聞こえました。みんなは小声で言ってるつもりでしたが、目の見えないボランティアさんにも耳は聞こえるので聞こえていたと思います。目の見えないボランティアさんはまぶたを閉じていたのでわからなかったけれど、心の中で泣いていたんだと思います。だから私は、その悲しい言葉を無くしたいと思います。けれど私も一回や二回は悲しい言葉を言ってしまったいました。思ってしまった。だから心からこう思います。

「本当にごめんなさい。」

私は、悲しい言葉ではなくて、

「楽しいね」

「ありがとう」

「うれしい」

などのうれしい言葉を増やしていきたいと思います。そうするのために、障害者でも障害者ではなくても、一人一人の人として向き合っていきたいと思います。だから私は、これからは絶対に悲しい言葉は言いません。みなさんも言わないでください。そして、良い世界にしましょう。

第26回子どもたちからの人権メッセージ発表作品

「よりよい未来へ」

清瀬第十小学校 六年 下平結衣

それぞれの人の個性が尊重される世界になることは、よりよい未来につながることに必要なことです。そのためには、色々な人とコミュニケーションをとることが大切です。そうすることで人種差別が少しでもなくなり、日本が外国の良さを見付けることができ、もっと仲が深まると思います。

私の学校には、外国語の時間にALTの外国人の先生が来ます。アメリカ人の先生で、しゃべり方や文化も違います。だからといって『これはおかしい』と口に出したり、態度に出すことはいけないことです。相手の立場になって考え、アメリカの文化を知り、受け入れることが大切だと実感しました。また、「ザ・ブルーハーツ」という歌手の「青空」という歌の中に、「生まれた所や皮ふや目の色で一体この僕の何が分かるのだろう」という歌詞があります。私はその通りだと思います。一人一人が尊重される未来になるには、たとえば小さなコミュニケーションでも続けていけば大きくなっていくのだと思います。

ただ、コミュニケーションをとったところで何の効果があるのか、身近な人としかできないのではないかと思う人もいるかもしれません。しかし、コミュニケーションをとっていただくことで相手は、こんな所が得意でこんな所が苦手なんだなということが分かり、個性を尊重できると思います。また、世界中の人々がコミュニケーションをとっていくとつなが

りが増えていくと思います。

それぞれの個性が尊重され、人種差別はいけないことなんだと一人でも多くの人に知ってもらいたい。そのために、身近なクラスや学年、学校でコミュニケーションをとっていくことが私たちにできることです。そして、自分自身も色々な人とコミュニケーションをとって、相手のことを尊重したいと思います。単純なことですが、それが、それぞれの人の個性を尊重し、よりよい未来につながっていくのだと思います。